



なりたい自分になる秘訣その1 助けを求める

先日12日には、令和5年度の入学式を挙行了しました。新入生76人がめでたく入学し、全校児童509人でのスタートを切ったところです。

学校は、みんなで学習する場です。そもそも、なぜ集団なのでしょう。もちろん、人間は社会的な生き物なので、集団生活に慣れる、なじむ必要があることは言わずと知れたことだと思います。本号は、「なりたい自分になる」ための、集団の意味や意義について考えてみたいと思います。

私たちは、全員なりたい自分になるために、日々学び続けているわけです。ただ、順風満帆ではないことが多い。先日、子どもたちと話しているとき、こんなエピソードを聞きました。

「毎年、今年はこんなことをするぞ!と決めるんだけど、割と成功しないよね〜」

「算数とか、難しい問題とか出たら、もうやめたくなくなっちゃう…できないんだもん。」

なるほど、納得。

このつまずきは、だれしも経験したことがあるものなのでしょう。やめたくなくなっちゃう気持ちもわかります。

しかし、それではなりたい自分にはなれない…

そんな時は、そう、友達に頼る。おうちの人に頼る。できそうな人に助けを求める。先生に聞いちゃう。そんな他者への依存がとても大切です。依存と書くと、非常にネガティブな響きがありますが、実はこれからの時代には欠かせない力だといわれています。

それは、協同的に問題を解決する力です。(こう書くと、なんだかポジティブな響きに代わりますね)

現代は、変化の激しい多様で不確か、あいまいな時代だといわれています。こんな時代に合わせて、なんでもできてしまうスーパーマンのような人は、決していません。

だから、次のようなことが必要なんです。自分の強みを見つけ、弱みがあることを見切る判断力。この人ならば、と頼れる人を見つけるコミュニケーション力。「ねえねえ、どうするの」と軽やかに尋ねできるおおらかさ。「あ、すごいことやっているな」と友達の活動に感動する豊かな感性と、「だから、マネしちゃおう」という大胆さ。

そう、ワンピースのルフィ(尾田栄一郎「ワンピース」集英社、1997年〜)みたいな感じ。

なりたい自分になるために、自分で努力することが大切なことは当然です。しかし、人間はそう強くない。だから、困ったら人に、友に、仲間に、家族に、地域の方に、先生に頼る。他者のすごさを知る力は、変化の激しい時代の最先端を悠々と闊歩することのできる人なのではないかと、最近は思っています。だから、学校はみんなで学ぶ場なんだろうなあ。

そんな思いを込めて、入学式の式辞を読みました。